

海外生活 エッセー

パリ事務所

コロナ禍でマンガブーム過熱 ～フランス政府が後押し？～

(一財)自治体国際化協会 パリ事務所 所長補佐 木下 正伸 (岡山県高梁市派遣)

→ フランスで身近となったマンガ

フランスでは、本屋はもちろん今やスーパーの小さな書籍コーナーでも日本のマンガが売られています。ワンピース、ナルト、鬼滅の刃、ドラゴンボールなど日本でも人気のマンガがフランス語に翻訳されて並んでいます。

2021年12月8日のワンピース100巻の発売日には、開店前から書店の前に長蛇の列ができた様子がTwitterなどに投稿されて話題となりました。



スーパーの書籍コーナーに並ぶマンガ

→ TVアニメから始まったマンガブーム

フランスのマンガブームは1978年から1986年にかけて仏国営放送で放送されたゴルドラック (Goldorak。TVアニメ「UFOロボ グレンダイザー」の仏語タイトル) が大ヒットしたことに始まります。ゴルドラックの最高視聴率は100%を記録するほどの人気で、それ以降ドラゴンボールやキャプテン翼などのTVアニメがフランスで次々と放送され、原作マンガの人気も高まってきました。

2021年9月15日から10月30日には、制作45周年を記念し「Goldorak-XperienZ」展がパリ日本文化会館で開催されました。期間中には約2万5千人が訪れ大盛況となるなど、アニメ・マンガブームの火付け役となったゴルドラックの根強い人気が改めて示されました。



特別展の様子 ©Maison de la culture du Japon à Paris
Hiroyuki SAWADA.

→ 4万円の「マンガパス」

2021年5月、フランス政府は18歳の国民全員に対し、「文化パス (Pass Culture)」と呼ばれる300ユーロ (約4万円) 相当のクーポンを配布しました。

このパスは24カ月間有効で、書籍・コンサート・劇場などの文化的なサービスに利用できます。仏新聞誌ル・モンド (Le Monde) によると、開始から5カ月で約78万人が利用しましたが、利用額の78%は本で、そのうち3分の2はマンガでした。仏放送局BFMTVによると、2021年1月から7月の間にフランスで2,510万冊のマンガが販売され、その売り上げは約1億8,600万ユーロ (約240億円) に達しました。前年の同時期と比較すると、なんと2倍以上の売り上げでした。一部の書店ではあまりの売れ行きに、文化パスのことを「マンガパス」と呼んでいるようです。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により自宅で過ごす時間が増えたことで、マンガやアニメに対する興味はますます高まっているようです。フランス政府は、2022年1月から文化パスの配布対象を15歳から17歳までの若者に拡大しました。政府の施策が今後更にマンガブームを後押しすることになるかもしれません。